

SSKR まうんてんえこお

No.311

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
<http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/>

山彦作業所(就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所(相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所(就労継続支援B型)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所(相談支援)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX(03)6906-9803
Email: ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井(就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: work@msd.biglobe.ne.jp

チャレンジワークやまびこ(就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: c.w.ymbk@xvg.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所(相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

やまびこ三原荘(共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

目次

表紙 ワーク自主製品

P2 やまびこ第二移転報告

P3 山彦・やまびこ第二近況

P4 ワークショップ・三原荘近況

P5 チャレンジ・相談近況・

P6 特集「宇都宮病院事件に思う」

P7 やまびこのペン(職員より)

P8 やまびこのかぜ(やまびこ第二)

自主製品販売好調



人気のハーバリウムボールペン

毛糸やまつぼっくりのリース
一つ一つ丁寧に仕上げています



ワークショップ石神井では、
昨年から自主製品の製作を始
めました。
毛糸や松ぼっくりを使ったリ
ースや、ハーバリウムなどを作っ
ています。
お客様で少しずつ販売の機会
も増え、多くのお客様に買っ
ていただいています。
これからも、色々な作品を作っ
て行きたいと思っています。

やまびこ第二作業所近況

北町から田柄に移転しました。

9月18日に、38年間利用させて頂いた北町の旧北保健相談所の建物から、田柄1丁目の新しい建物に引っ越しをしました。練馬区から無償で借りた土地に、こぶし事業所さんが新しい建物を立てて下さり、そこに入るようになりました。「こぶし事業所」「はじめのいっぽ」「やまびこ第二作業所」の3事業所が一緒に同じ建物で活動しています。

温かく見守って くださった 北町に感謝です！

斎藤 恵久子

9月の3連休、台風14号が関東に接近する中、私たちは隣町の田柄に移転しました。引っ越し日は作業に支障のない日を選んで、作業に穴をあけないように準備してきました。一番、頭を悩ませたのが、メンバーの不安を極力減らして移転先で気持ちよく過ごすには、どういう配置がよいかということでした。紙上で考えるのと、実際現場で考えるのは違いが大きく、引っ越してから数日、配置転換をしていました。下請け作業を請け負っている作業所はどこも一

緒だと思いますが、まず作業部材の量が多く場所をとってしまいうことがネックでした。北町だ



北町の旧建物



田柄の新建物

と作業所内外に倉庫があり比較的、置き場を整理することが出来ました。移転先では中に倉庫など作らずワンフロアで区切って使いやすくてきたら良いと考えていました。しかし、始まってみると区切らなかつた分、壁が少なく四苦八苦しているような状況です。早く慣れて使い勝手の良い配置ができるとよいと考えています。

この地域に移ることになった経緯は5年前にさかのぼります。はじめは自分たちで移転先を探すように区から言われて、作業所近辺でみんなが日中いられる

場と考えると、なかなかそんなに広い場所は見つかりません。そんなときに今まで一緒に屋根の下で別々に運営してきた「こぶし事業所」さんが区から無償で土地を借りて田柄に長期の借金覚悟で建物を建ててくださることになりました。区からの依頼で、もうひとつ「はじめのいっぽ」さんが加わり3所と区で4者協議を20回以上おこない今回の移転にこぎつけることが出来ました。

2階がこぶし事業所さん、下が第二作業所、奥に見えるのがはじめのいっぽさん





新しい作業場

北町を離れるにあたり、いろいろな書類や写真などを片付けていると、どれも思い出が多く、なかなか片付きませんが、個人の引越しもそうですが、心を鬼にして捨てるものは思い切って捨てていかないと前に進めません。苦しい選択を迫られました。開所当初に行っていた機織りや木工組木が出てきたり、若き日のみんなの写真が出てきたり、バザーのぼりが出てきたり・・・。でも思い出にふけている時間はあります。荷物がすべて無くなってがらんとし

た作業場や事務所をみて、開所前に見学に来た時のことを思い出していました。「なんて広いんだろう」「ここで何をしよう」と夢が次々と広がりました。でも書類や部材等によって手狭になりましたが、元の北保健相談所ということもあり、とても自由で過ごしやすいかったです。それは場所の問題だけでなく、地域の方や関係者も多く出入りしているのも見守られていたからだと感じています。

今回の引越に当たり、こぶし事業所さんはじめ、練馬区や他の事業所さんやいろいろな方に支えられて移転にこぎつけることが出来ました。小さい法人の事業所は1か所ではなにも出来ません。これからは周りと協力しあいながら事業を運営し、そしてより良い支援を志していきたいと切に感じています。それは、障害があろうとなかろうと、より良い街づくり地域づくりに通じるものと考えています。今後とも、変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願いします。

山彦作業所 近況

今年度の夏は今までで1番と言われるぐらいコロナの感染者が増え、2週間ほど在宅勤務となるがありました。そのため、夏休み前に行われる予定だったミニ納涼祭も中止となり、とても残念な結果となりました。利用者者が楽しみにしていたイベントが何もなく今年も残りわずかなってしまいました。が、年末の最終通所日にお疲れ様会を予定しております。

そんな中ですが、作業は忙しく下請け作業を始め、お弁当当作業は15周年を迎え記念弁当80食を完売しました。作業が忙しいのはとてもありがたいうことです。利用者にとつてはイベントもあり、お仕事も忙しく取り組めることも1つの日々の楽しみになっていると思います。

作業ばかりの近況となつてしましますが、なにか1つでも多くのイベントや楽しみができる様に職員一同も考えていきたいと思っています。

(村上)



作業の様子【DM作業】



作業の様子【磁石作業】



ワークシヨップ石神井 近況

8月10日、夏休みを翌日に控えたこの日、ワークシヨップ石神井では、DVD鑑賞とゲームというレクを行いました。

コロナ禍で、バスレクなどのイベントが次々と中止される中、密を避けながら少しでも楽しみを、と始めたこのレクも、今年で3回目。当初は、まさかこんなに長くこの状態が続くとは思ってもみませんでした。

初回はDVD鑑賞だけでしたが、2回目からは密を避ける工夫をしながらゲームも取り入れ、メンバーのささやかな楽しみとなっていました。

今年は2階で「名探偵コナン」3階で「スパイダーマン」のDVD鑑賞、1階でジェンガやイントロクイズなどを行いました。

イントロクイズは最近導入したタブレットを活用しました。タブレットから流れてくる音楽のイントロを聞いて、曲名を当てるわけ

ですが、手軽にできるのに思った以上に楽しめて、参加したメンバーにも大好評でした。

レクの終わりは、今年も一堂に会して飲食することは避け、おやつとの詰め合わせとドリンクをお土産として持ち帰ってもらいました。



D V D 鑑 賞 会



イ ン ト ロ ク イ ズ

密を避けてのレク、いつまで続くのかはわかりませんが、少しでも楽しい時間を過ごせるように、これからも工夫していきたいと思っています。

（渡辺）

やまびこ三原荘近況

今年の3月と6月に男性入居者2名がやまびこ三原荘の「通過型」（原則3年間）に入居されました。

その中の一人、祐一さん（仮名）をご紹介します。祐一さん38歳は、2年半の入居生活を経て三原荘に入居されました。三原荘の体験試泊では、アットホームな雰囲気や安心できる雰囲気、気が入り入居を希望されましたが、退院直前になって体調を崩してしまい三原荘への入居をやめたいと考えてしまいました。しかし、周りの支援者や家族の温かい支えもあり三原荘に入居することができ、今では3カ月が経ちました。

祐一さんの今の生活を聞くと、「毎日楽しいよ。三原荘に入って良かった」と笑顔で返事が返ってきました。祐一さんの好きなことは、カフェに行ったり、好きな音楽を

聞いてリラックスすることです。今後の目標は、ゆっくり生活をしながら体調を整えて、好きな絵を描いたり、デイケアに行くことと話しています。そして将来は、働いてお金を稼ぎたいという目標を持って三原荘で生活をされています。

グループホームでの生活は、初めは生活環境が大きく変わり誰かが不安の中からスタートします。その中で人との交流を通じて少しずつ生活に慣れて行き、自分のやりたいことや目標を見つけて一人一人が自分の課題と向き合いながら生活をしていきます。3年間という短い期間ではありますが、三原荘での生活を通じて様々な経験をしたいと思っています。（世話人 青柳）



本人 作画

チャレンジワーク近況

第3回チャレワ交流会開催!

8月10日にチャレンジワークやまびこにて「第3回チャレンジワーク就労交流会」が開催されました。開催の目的は卒業生・現チャレンジワークメンバーが仕事をテーマに振り返り、お互いが就労意欲向上を目指すこと。メンバーは交流会に向けて役割分担を決め、卒業生に聞きたいことを考えて準備をしました。

当日は卒業生6名、利用者4名、職員は前任者を含めて4名の合計14名の参加でした。まず初めにアイスブレイクもかねて皆でじゃんけんゲーム。勝った人から好きな飲み物を選びます。次にこの日の為にメンバーが考えた質問をインタビューしていきます。

「仕事でやりがいのあることって何ですか?」

「仕事中に失敗した時、うまくいかなかった時、気持ちがイライラした時の乗り越え方を教えてください。」
「仕事をする上で生活面で気を付けていることは?」

等々と質問が出ました。

卒業生からは、
「ありがたうって言ってもらったりするのが嬉しい、やりがいを感じる」

「体調がしんどい時もある。ペースを落としたり、上司に伝えたり、冷静になることが大事」

「平日と休日を分けて寝る時間を決めて、床屋に月一回行っている」
等とアドバイスをもらい、卒業生の真っ直ぐな答えが仕事への姿勢に重なりました。

この交流会では現メンバーにとって実際に働いている人と出会い、直接話を聞くことで就労に向けてのヒントがたくさんありました。また、卒業生にとってもチャレンジワークが一つの居場所として安心できるように努めていきたいと思いました。今後も第4回・5回と交流会が開催され、チャレワの輪が広がれば幸いです。

~~~~~



☆最後に皆で記念撮影!

相談支援事業所の近況

練馬山彦福祉会の3つの相談支援事業所は、それぞれが別々の事業所であり相談支援専門員が1名ずつ配置されています。区内の利用者が利用しやすいようという思いから3か所の地域で開設しました。

当時から一人職場は問題視されていたのですが解決策が見つからないまま現在に至っています。

「計画相談って何?」

「やらなくちゃダメなの?」

と、スタート時点では面倒がらる存在でしたが徐々に浸透し、最近では、

「計画相談を付けないと利用できない」と事業者から言われたのでお願いできますか?」

と当事者から問い合わせを受けたり、事業者から利用者の相談を受けるなど相談支援事業所の役割が大きくなってきたと感じています。

法人内部・外部に関係なく受けているため対象者やサービス等の幅が広く、様々な制度やサービスについて知ることが出来て面白さを感じると同時に、利用

者の生活を支える責任の重さも感じるようになりました。

支援で迷ったり、行き詰まったり、関係者と考え方が違った時など、同じ空間に相談できる人がいたらどれほど気持ちが楽になるだろうと思うことが度々あります。

感染症や大震災発生時のサポート体制について区に問い合わせたところ、法人内の事業所同士でも相互のサポートは不可能であることが明らかになりました。

相談支援専門員の退職や長期欠勤に備えることも必要です。

事業所が安定することで相談支援専門員が安定し、より良い利用者支援に繋がります。後に続く相談支援専門員が働きやすく地域の方々が安心して利用できる安定した事業所を目指し、新たな体制整備に取り組みもうと考えています。誰もが笑顔でいられるように。

(ワーク石神井相談 上之原)



## 40年前の亡霊が・ 宇都宮病院事件 に思う

練馬山彦福祉会

理事長 坂元 信幸

1983年4月、食事の内容に不満を漏らした入院患者が看護職員に暴行され約4時間後に死亡、同年12月見舞いに来た人に病院の現状を訴えた別の患者が、職員らに殴られ翌日に急死。これを1984年3月14日朝日新聞が報じ、他にも日常的に暴力が振るわれていたことが判明、世論の大きな注目を集め、国会でも政府の対応が糾されました。日本の精神医療史上に残る不祥事、世に言う「宇都宮病院事件」です。

記憶の彼方の事件とっていましたが、2020年6月24日号の「週刊金曜日」を見て驚きました。この病院がまたしても人権侵害と思われる違法な強制入院(医療保護入院)で裁判を起こされたと報

じられました。何よりも驚いたのはこの医療保護入院の措置を進めたのが、精神保健指定医の資格のない同病院オーナーの「石川文之進」医師(96歳)だったことです。率直に言って96歳でまだ現役であることにまず驚き、更に前述の宇都宮事件で刑事処分をうけ(懲役8ヶ月)、現職に復帰し病院経営に当たっていることにさらなる驚きと怒りを覚えました。どうしてこういう事態が起こるのか、日本の精神医療が抱える闇の部分を見るような思いがします。

最近でも2020年3月神戸市の神出(かんで)病院で看護師による患者への集団暴行事件が発覚しました。2年ほど前から虐待行動があり6名が逮捕されました。さらに2021年5月にも看護師の暴行事件があり、書類送検される事態になりました。まさに「性懲りもなく」という感じです。

ちなみにこの病院の元理事長は同年10月に日大板橋病院の建て替えに絡み、大学の資金を流出させたとして逮捕されるというおまけまでつく事態になっています。

2022年9月9日、国連障害者権利委員会から日本政府に対して権利条約に関する所見が出されました。まだ仮訳の段階です。正確な報告は今後に待たれますが、その中では日本の精神科医療に関する非人道的性が随所に指摘されています。中でも、拷問及び残虐、非人道的又は品位を傷つける取扱い又は刑罰からの自由(第15条)に関する所見の最終部分で、(c)精神科病院における残虐、非人道的、または品位を傷つける治療を報告し、被害者のための効果的な救済策を確立し、加害者の訴追と処罰を確実にするためのアクセス可能なメカニズムを確立する。という指摘がなされ、権利委員会でも日本

の精神科医療の問題点の大いに意識しているものと思います。

多少の不祥事があったとしても社会防衛的な観点から精神科病院が必要とされてしまう背景、あるいは精神科は民間病院が約9割を占め、そのため経営上満杯にする必要があるなどの事情、また最近の動向としては統合失調症に変わり認知症の方が精神科に入る傾向も増えているようです。

他にもいろいろ背景はありますが、40年前の亡霊がよみがえったような今回の訴訟事件、精神科医療の問題点を問い直すきっかけになることを期待したいと思っています。障害者権利委員会からは、単なる改善を求める勧告ではなく、処罰を求めるという強い内容となっており、もはや猶予ならぬ事態と考えるべきです。

## やまびこのペン

その昔インターネットに始めて触れた頃「ピー」「ロ」「ロ・・・」の音から始まる電話回線方式が主流でした。そこから情報を得ることは画期的で、それまで書籍であったり、特定の人や場所が無いとわからないような、あらゆることを簡単に知る機会が増えました。

実際には情報過多で断片的、見出し程度のことしか頭に残っていません。そしてそれが決して正しくもないし、全てでも無いのです。

それでも生活において重宝することはたくさんありました。

しばらくするとそこからいくつもの専門用語やアルファベットが生活に入り込んできて戸惑い始めました。

LAN、ADSL回線、Wi-Fi、Bluetooth、光回線、HDMI、SSD・・・



毎度のこと、頭を傾げ「それは何ですか?」「覚えるの必要?」と考えながら、必要なものだけ一つ理解してまた一つ進み、時には戻る、そんなことを繰り返してやり過ごしてきました。

中には世間で当たり前のように浸透しているものも不要なものも混同していて、業者に不必要なことで話を丸め込まれそうになったこともあります。

なかなかどうして。だからこそ今も覚えること、否、付いていくことには必死です。

年々、スマホやパソコン／タブレット、ネットが生活に身近

となり、契約の機会が増えました。総じて契約文章は長くわかりづらく、読み取れないまま相手のネームバリューに委ねて契約を締結することも少なくありません。

文章の中には見逃してしまうような点があります。例えば中途解約で多額の手数料だとかその申し出期間がごく限定的。細かに聞くと大してお得では無い等。この他にも世間の契約や文言には様々な仕掛けがあります。

この仕掛けに遭遇する度、ひどい話だな、ひどい流れだなと思います。よく聞かないとわからないことばかり、時にはこの状況って詐欺と何が違うのだろうと思つことも。

私はギネスブックにも認定された映画「男はつらいよ」の主演『車寅次郎（寅さん）』が好きで、寅さんだったら何て言うかなって思つのです。「おかし

いだろ、お題ごんやりすぎだよ」なんて言ってくれるかな。

寅さんは名物の口上で上手いことセールスしますが、落胆するような引っかけはしない。世間でこんな状況がまかり通っても、自身の業務では契約や説明において出来るだけ丁寧に伝えていくことを大事にしたい。情報の格差がスタートラインからあって欲しくない。

これから専門用語や契約内容を学ぶことが多くとも必要なことを少しずつ理解して、自分の言葉で相手に届くよう心掛けていきたいです。寅さんの言う「お天道様は見ているぜ」を信じて。

チャレンジワークやまびこ

伊東





# やまびこのかぜ

## やまびこ第二

やまびこ第二作業所 O・M

ウルトラセブン第38話「勇気ある戦い」より抜粋。

心臓病を患った一人の少年がいま  
す。  
そこでダン（セブンに変身する主人公）がこう言います。

「いくじがないぞオサムくん！  
オサムくん、ウルトラ警備隊がど  
うしてあんなに素晴らしい戦いが  
できるか分かるい？」

それはね、われわれの全てが、  
小さなネジ一つ、メーターひとつ  
にも人間の作った最高の科学が生  
かされているから、  
ウルトラ警備隊はあんなにも勇敢  
に戦えるんだ」

この言葉に支えられて、私は作  
業所でいくたびの作業をこなして  
きました。  
コンテナ、台車、計量器、結束機、  
封緘機。どれ一つとっても、作業  
には欠かせないものたちばかりで  
す。

準備を怠らずに、「成」すべき

ことを成す」こうありがたいもので  
す。

何を隠そう、実は、私は雨が降  
ると休むようになっていきます。依  
然は雨具を着て通っていました。依  
あるとき、自転車同士でぶつかっ  
てしまい、それ以来、雨の日に雨  
具を着られなくなりました。それ  
から雨の日対策として傘を自転車  
に固定して通っていた時期もあっ  
たのですが、それも危険というこ  
とで、今は出来なくなっています。  
準備を怠らずに通いたいのですが、  
現在対応を模索中です。

この38話には、まだ心に残って  
いるシーンがあります。  
クレイジーゴン（ロボット怪獣）  
が暴れ回って、オサムくんが手術  
を受ける病院が危険な状況となり  
ます。

ダンには病院を守るための闘いで、  
病院に駆けつけられなくなりまし  
た。

オサムくんは  
「ダンはどうしたんだ！来ないじゃ  
ないか！もう信じないぞ！」と言  
いながら、手術台のベッドで横に  
なります。

そこに傷を負ったダンが駆けつけ

て、  
オサムくんにこう言います。  
「今、きたよ！頑張れよ！」  
少年は安心して手術に向かう・・・。

怪獣と闘っているダンが、少年と  
交わした約束を必死に守ろうとし  
ていたことに、感動を覚えました。

準備、約束を守る。これが勇敢さ  
なのだと教えられた第38話でした。  
今後もこの心意気で作業に頑張っ  
てまいりたいと思います。

## 編集後記

久しぶりの編集責任者でした。改め  
て、人の言葉・文章を扱う大変さを感じ  
ています。白いページに文字を埋め  
ていくこと。それ自体、とても創造的  
なことでもあるですね。大変でした  
が、楽しい時間でもありました。  
(いけだ)

## 編集人

社会福祉法人  
練馬山彦福祉会

東京都練馬区  
富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023

## 発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区  
祖師谷3-1-17  
ヴェルドゥーラ102号室

頒価 20円